

# 小麦・大豆の国産化の推進

【令和6年度予算概算決定額 50 (90) 百万円】  
 (令和5年度補正予算額 13,000百万円)

## <対策のポイント>

産地と実需が連携して行う**小麦・大豆の国産化を推進**するため、ブロックローテーションや営農技術・機械の導入等による**生産性向上や増産**を支援するとともに、国産小麦・大豆の安定供給に向けた**ストックセンターの整備**や民間主体の**一定期間の保管**、**新たな流通モデルづくり**、更なる利用拡大に向けた**新商品開発**等を支援します。

## <事業目標> [平成30年度→令和12年度まで]

- 小麦生産量の増加 (76万t→108万t)
- 大麦・はだか麦生産量の増加 (17万t→23万t)
- 大豆生産量の増加 (21万t→34万t)

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 1. 国産小麦・大豆供給力強化総合対策

- ① 生産対策 (麦・大豆生産技術向上事業) 47 (90) 百万円  
【令和5年度補正予算】4,500百万円

麦・大豆の増産を目指す産地に対し、水田・畑地を問わず、**作付けの団地化、ブロックローテーション、営農技術の導入**等を支援します。

- ② 流通対策 3 (-) 百万円  
【令和5年度補正予算】430百万円

#### ア 麦・大豆供給円滑化推進事業

国産麦・大豆を**一定期間保管**することで、安定供給を図る取組を支援します。

#### イ 新たな麦・大豆流通モデルづくり事業

麦・大豆の流通構造の転換に向けた**新たな流通モデルづくり**を支援します。

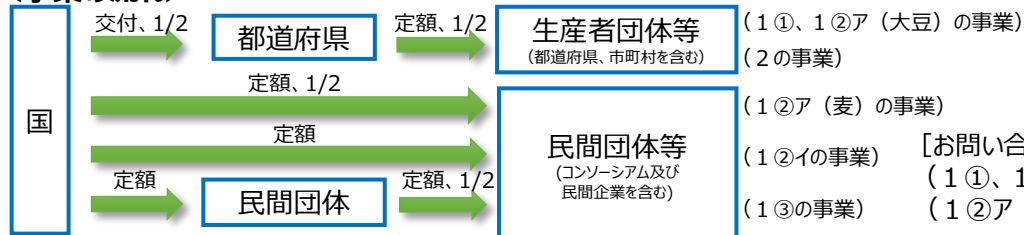
- ③ 消費対策 (麦・大豆利用拡大事業) 【令和5年度補正予算】70百万円  
 国産麦・大豆の利用拡大に取り組む食品製造事業者等に対し、**新商品開発**や**マッチング**等を支援します。

### 2. 産地生産基盤パワーアップ事業のうち国産シェア拡大対策 (麦・大豆)

【令和5年度補正予算】8,000百万円

国産麦・大豆の取扱数量を増加させる取組を推進するため、増産に資する**農業機械や乾燥調製施設の導入**、不作時にも安定供給するための**ストックセンターの整備**、国産麦・大豆の利用拡大に向けた**食品加工施設の整備**等を支援します。

## <事業の流れ>



### 1. 生産対策



営農技術の導入 (定額)



農業機械の導入 (1/2以内)



乾燥調製施設の整備 (1/2以内)

### 2. 流通対策



- ・ストックセンターの整備 (1/2以内)
- ・一定期間の保管 (定額、1/2以内)

### 3. 消費対策



- ・新商品の開発 (定額、1/2以内)
- ・加工設備・施設の導入 (1/2以内)

**小麦・大豆の国産化を一層推進**

# 麦・大豆ストックセンター整備対策等の成果

○ これまでに安定供給を目的とした保管庫を14件整備、延べ保管能力は約4.3万トン

麦・大豆保管施設整備事業（R2補正）	採択件数	7件	総交付額	8.1億円
麦・大豆保管施設整備事業（R3補正）	採択件数	3件	総交付額	7.3億円
国産小麦安定供給強化対策（R4予備費）	採択件数	1件	総交付額	3.0億円
麦・大豆ストックセンター整備対策（R4補正）	採択件数	3件	総要望額	7.6億円

## <整備事例>

### ○佐賀県農業協同組合（R4補正）

【構造】定温倉庫：3,657㎡  
保管能力：6,042 t  
【所在地】佐賀県佐賀市

### ○国産大豆備蓄コンソーシアム（R4補正）

【構成員】  
・有限会社古田商店  
・株式会社互明商事  
・全国農業協同組合連合会

【構造】定温倉庫：688.5㎡  
保管能力：1,000 t  
【所在地】愛知県名古屋市

### ○北海道産麦コンソーシアム（R2補正）

【構成員】  
・ドーフン  
・江別製粉、横山製粉、木田製粉  
・北海道製粉工業協同組合  
・北海道農業協同組合中央会  
・ホクレン農業協同組合連合会  
・北海道農政部

【構造】定温倉庫：3,000㎡  
保管能力：6,000t  
【所在地】北海道石狩市



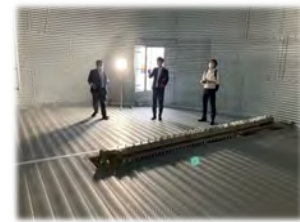
【構成員】  
・北海道グレインカンパニー  
・オホーツク十勝豆づくり部会  
・片岡商店  
・高田商店  
・あいち醸醸社

【構造】定温倉庫：1,632㎡  
保管能力：2,545 t  
【所在地】北海道網走郡美幌町

【構成員】  
・山本忠信商店  
・事業協同組合チホク会



【構造】コルゲート定温サイロ  
（750t×8基）  
保管能力：6,000t  
【所在地】北海道音更町



# ○米穀周年供給・需要拡大支援事業

【令和6年度予算概算決定額 5,033 (5,033) 百万円】

## <対策のポイント>

生産者、集荷業者・団体の自主的な取組により需要に応じた生産・販売が行われる環境を整備し、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や海外用など他用途への販売を行う取組等を実施する体制を構築するため、**民間主導のコメの周年供給・需要拡大等に対する取組を支援**します。

## <事業目標>

生産者、集荷業者・団体による自主的な経営判断や販売戦略に基づく、需要に応じた米の生産・販売の実現

## <事業の内容>

### 全国事業

#### 1. 業務用米、新市場開拓用米等の安定取引拡大支援

産地と中食・外食事業者等との安定取引を拡大するため、**民間団体等が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けた展示商談会、新たな需要拡大に向けた商品開発・販売促進、海外業務用需要などの新たな市場開拓に必要な取組等**を支援します。

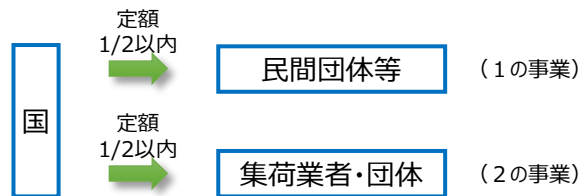
### 産地事業

#### 2. 周年供給・需要拡大支援

産地において、あらかじめ生産者等が積立てを行い、以下の取組を実施する場合に支援します。

- ① 主食用米を翌年から翌々年以降に長期計画的に販売する取組（播種前契約、複数年契約の場合は追加的に支援）
- ② 主食用米を海外向けに販売する際の商品開発、販売促進等の取組
- ③ 主食用米を業務用向け等に販売する際の商品開発、販売促進等の取組
- ④ 主食用米を非主食用へ販売する取組

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 1. 業務用米、新市場開拓用米等の安定取引拡大支援

〔セミナー〕



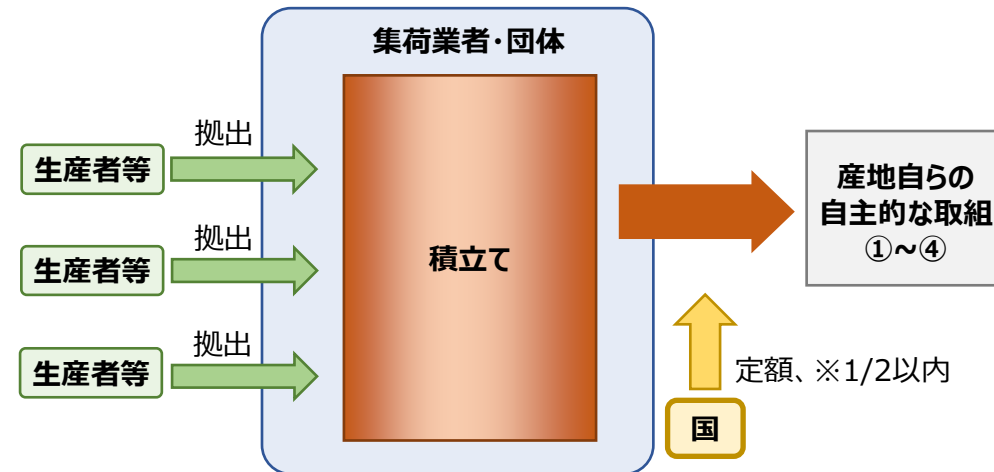
〔展示商談会〕



〔個別商談会〕



### 2. 周年供給・需要拡大支援

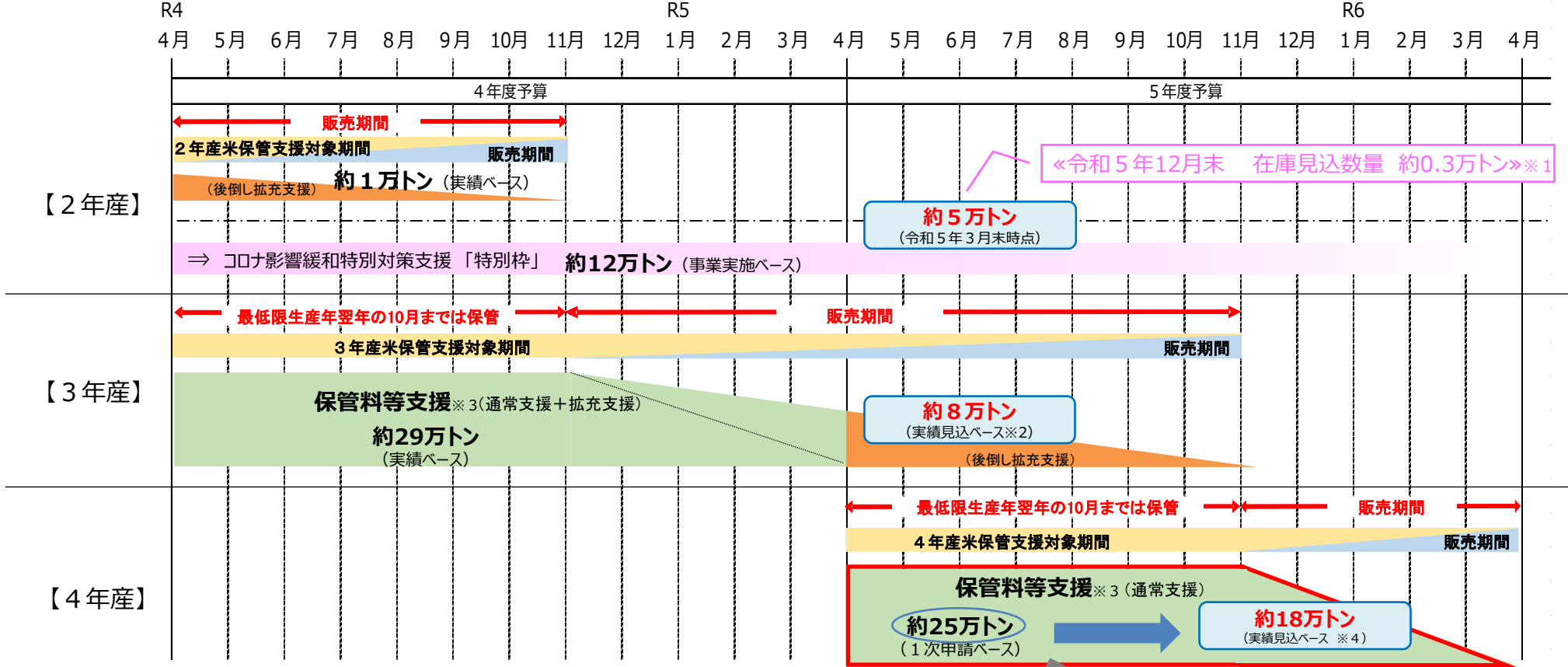


※ 値引きや価格差補填のための費用は支援の対象外。

# 令和4・5年度の保管料支援のイメージ（「米穀周年供給・需要拡大支援事業」及び「コロナ影響緩和特別対策」）

- 令和5年度の「米穀周年供給・需要拡大支援事業」の長期計画的な販売の取組については、計36の事業者から令和4年産通常支援で約25万トン、令和3年産後倒し拡充支援で約8万トンの申請があったところ。
- なお、4年産通常支援では令和5年10月末以前に販売された米穀等が約7万トンあったため、結果として、取組支援数量は約18万トンとなる見込み。

## 【保管経費等の拡充支援イメージ】



※1 事業実施主体からの報告（令和5年12月末時点）。  
 ※2 事業実施主体からの報告（令和5年11月末時点）。  
 ※3 保管料等の支援対象経費 保管料：米穀の保管経費  
 金利：販売時期が遅れることにより増加する概算金支払に係る借入金の支払利息  
 集約経費：対象米穀の営業倉庫等への集約運送に要する経費  
 ※4 事業実施主体から聞き取った12月末時点の実績見込数量。

約7万トン  
既販売等